

■北海道初、帯畜大に女性コーディネーターが登場

北海道学生アメリカンフットボール選手権に初の女性コーディネーターが登場して、フィールドの注目を集めている。帯広畜産大の折戸縁（おりと・より）さん＝畜産学科4年＝だ。9月28日の東京農業大戦でもヘッドセット姿でサイドラインから攻守の指示を送り、34－14の勝利を演出した。

帯広畜産大カウボーイズのAS（アナライジング・スタッフ）の折戸さんが、ヘッドセットを着用するのは今春のオープン戦から。きっかけは「卒業までに、チームでのASの役割を確立したい」と決意したこと。スカウティングを基に相手チームを分析するのがASの仕事だが、「スカウティングレポートにプラスしたい。外から見ての方が冷静に判断できる」と、フィールドへの指示役に名乗りを挙げた。



金沢二水高では馬術部の折戸さん。アメフトはまったくの素人だったが「カウボーイズのほかにユーチューブも使い、徹底的に試合を見た。選手や外部コーチにも話を聞き、試合運びとプレー選択を勉強した」という。春季オープン戦でまず守備コーディネーターを務め、スカウティングを基に相手チームの攻撃を予測して守備キャプテンに指示を送った。釧路公立大には20－36で敗れたが、東京農業大には35－12で逆転勝ちした。鏡順之助監督から「合格」をもらい、秋は待望の攻撃コーディネーターも任されることになった。

攻撃コーディネーターの準備は入念だ。スカウティングを基にカウボーイズ選手と相手選手のマッチアップを冷静に分析し、「出るプレー」と「出したいプレー」をピックアップ。スポッターからの情報も加味して、フィールドのQBに指示を出す。「最終的には選手の判断。自分は、選手が考える時間を節約するのが役目」と控えめに語るが、事前のミーティングのほか、試合中にサイドラインに下がった選手からも丹念に状況と意向を聞き、プレー選択に反映させる。「最適と思うプレーを選択する」と力を込める。

秋季リーグ4戦目となった9月28日の東京農業大戦では、後半に4TDを集めて逆転勝ち。待望の初勝利を挙げた。「後半はQBの調子が良くなり、思うように進めた。相手守備ラインがけがで欠けたので、出るプレー、出るプレーで押した。強気で組み立てた。1勝して、やっと安心しました」と会心の勝利を振り返った。

10月19日の室蘭工業大戦は、折戸さんにとってもラストゲーム。「まず勝ちたい。ASの仕事を次の世代につなげるゲームにしたい」と願う。そして「最後なので楽しみたい」と付け加えた。